

製品名: TESK2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18801**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	TESK2
別名	TESK2; Dual specificity testis-specific protein kinase 2; Testicular protein kinase 2
遺伝子 ID	10420.0
SwissProt ID	Q96S53
免疫原	抗血清はヒト TESK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

背景

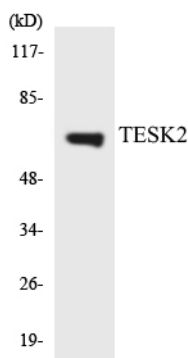
精巣特異的キナーゼ 2 (TESK2) ホモサピエンス この遺伝子産物は、精巣特異的プロテインキナーゼ 1 および LIM モチーフ含有プロテインキナーゼ (LIMK) のキナーゼドメインと構造的に類似した N 末端プロテインキナーゼドメインを含むセリン / スレオニンプロ

テインキナーゼです。その全体構造は前者に最も関連しており、LIMK/TESKファミリーのプロテインキナーゼのTESKサブグループに属することを示しています。この遺伝子は主に精巣と前立腺で発現します。ラット遺伝子の精巣における発現パターンは、この遺伝子が減数分裂期および/または精子形成初期に重要な役割を果たすことを示唆しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2016年3月]、代替製品：一部のアイソフォームでは実験的確認が不足している可能性があります。触媒活性：ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子：マグネシウム。補因子：マンガン。酵素調節：Ser-219の自己リン酸化によって活性化されます。機能：セリン/スレオニン残基とチロシン残基の両方における自己リン酸化と外因性基質のリン酸化を触媒する二重特異性タンパク質キナーゼ活性。コフィリンを「Ser-3」でリン酸化します。精子形成において重要な役割を果たす可能性があります。類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。類似性：1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。組織特異性：主に精巣と前立腺で発現します。主に非胚芽セルトリ細胞に存在します。

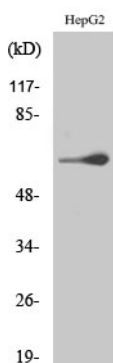
研究分野

微小管ダイナミクスの制御

画像データ



TESK2抗体を使用したK562細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



TESK2ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析